

じゃんぷ!



節分楽しみ会に使う、鬼を自分たちで作ることになりました。一人では大きくて作れないけれど、クラスみんなで協力し合って作りました。「鬼のパンツ作る人はこっちね。」「じゃあ、鬼の体作る人はこっちでやろう。」などと役割に分かれてやり始めたり、「鬼って金棒持っているよね。」「何で作るといいかな。」「強そうな感じがいいよね。」などと考えたことを話し合う姿もみられました。そして、出来上がった鬼たちが、この青鬼と赤鬼です。パンツの模様一つ一つに意味もあったり、角が3本あったりするなど、子供たちなりに思いをもって作り上げていきました。



1人では大変だけど、みんなと一緒に作ると、こんなにも大きい鬼が出来た!



ここ、押さえてって!

いいよ!



鬼が出来上がると、今度は鬼を動かしたくなった子供たち。ドシンドシンと力強い足音を立てながら廊下やホールを歩く姿はまさに、本物の鬼が歩いているかのようでした。そんな様子を恐る恐るドアから見ていたこあら組の子が、「きゃあ〜!」と怖がって逃げる様子を見て、なつめ組の子たちは思わずにっこり。(自分たちが作った鬼を怖がってくれた!)



すると、今度は自分たちが鬼になって遊びたくなった子供たち。自分たちが子鬼になり、なつめ鬼の家族ができました。

節分という行事をいろんな形で楽しみむことができるのは、友達と一緒に遊びを創る力がぐんぐんと育まれてきているからです。

なつめ組の子たちがドッジボールをして遊んでいると、自然とたいよう組の子が遊びに入ってきて、遊び方や投げ方を教えてくれます。優しいときもあれば、時にはボールを当てられて悔しい思いをするときもあります。それも大切な関わりだと考えています。異年齢での関わりが、遊び心を刺激し、その遊びが自分たちのものへと受け継がれていきます。

